

いわゆる「出会い系サイト」に関するアンケート 集計結果報告書（抄）

調査の概要

1 調査の目的

いわゆる「出会い系サイト」等に関連した児童が児童買春等の犯罪に巻き込まれる事件の発生が後を絶たない。そこで、「出会い系サイト」等に係る児童の被害防止方策について検討を進めるにあたり、この種の問題に対する国民の意識を参考とすることを目的として調査を実施した。

2 調査実施主体

警察庁

3 実施時期

平成 19 年 10 月 20 日（土）～同 26 日（金）

4 実施内容

(1)回答者

47 都道府県の運転免許試験場等において免許証の更新を受けるために来場した 2,705 人

(2)実施方法

運転免許試験場等においてアンケート調査票を配布し、無記名で調査票への記入を依頼した。

(3)アンケートの概要

設問数 11 問（回答者の属性並びにインターネット異性紹介事業に関する設問）

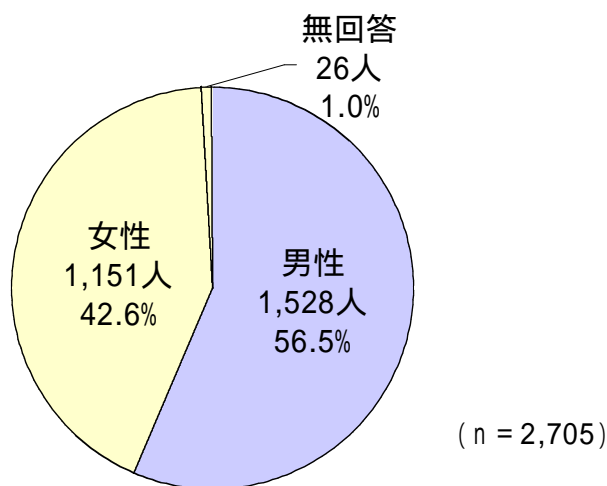
調査の結果

<報告書の読み方>

- ・割合については、小数点第2位を四捨五入したため、択一形式の問であるにもかかわらず、回答について内訳の合計が100%とならないものもある。
- ・「n」とは、100%が何人の回答者数に相当するかを示す。
- ・意識調査結果については、全体の結果のみグラフ、数値等を表示しており、コメントには性別・年齢別の記述をしている。

1 回答者の概要（属性）

図1. 回答者性別



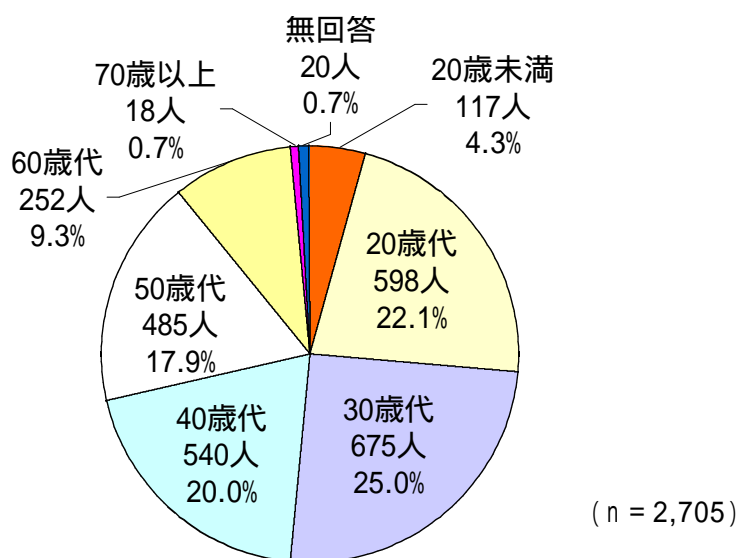
(1)性別

回答者の性別割合は男性 56.5%、女性 42.6%となった。

(2)年代

全回答者の年代別割合を見ると、30歳代が25.0%で最も多く、次いで、20歳代(22.1%)、40歳代(20.0%)、50歳代(17.9%)となった。

図2. 回答者年齢

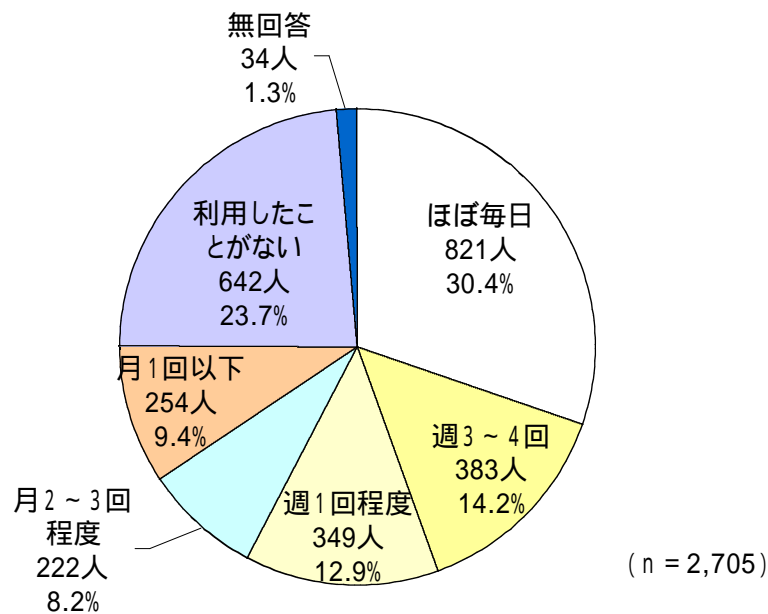


(3)パソコンでのインターネット利用頻度

・パソコンでのインターネット利用頻度は「ほぼ毎日」が30.4%、
「利用したことがない」が23.7%

パソコンでのインターネットの利用頻度は、「ほぼ毎日」が30.4%と最も多い。次いで「利用したことがない」が23.7%となった。

図3. 回答者のパソコンによるインターネット利用頻度

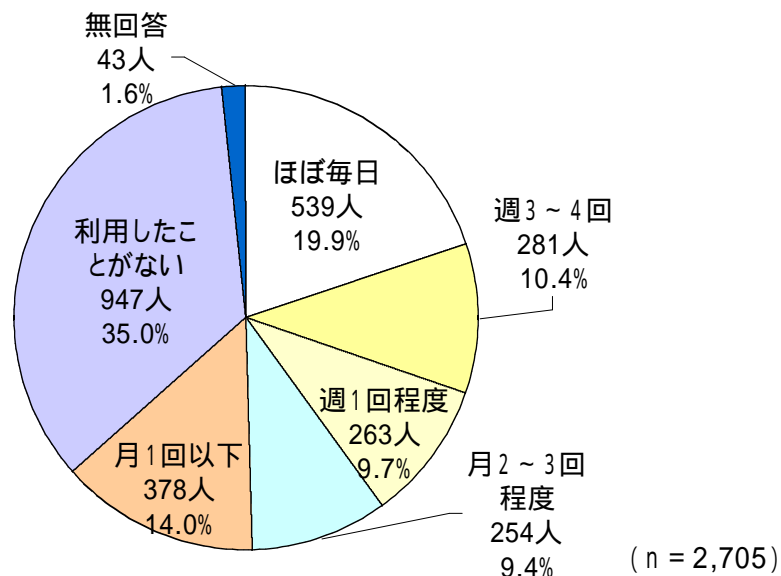


(4) 携帯電話でのインターネット利用頻度

・携帯電話でのインターネット利用頻度は「利用したことがない」が35.0%、「ほぼ毎日」が19.9%

回答者の携帯電話でのインターネットの利用頻度を見ると、「利用したことがない」が35.0%と最も多い。次いで「ほぼ毎日」が19.9%となった。

図4. 回答者の携帯電話によるインターネット利用頻度



2 意識調査結果

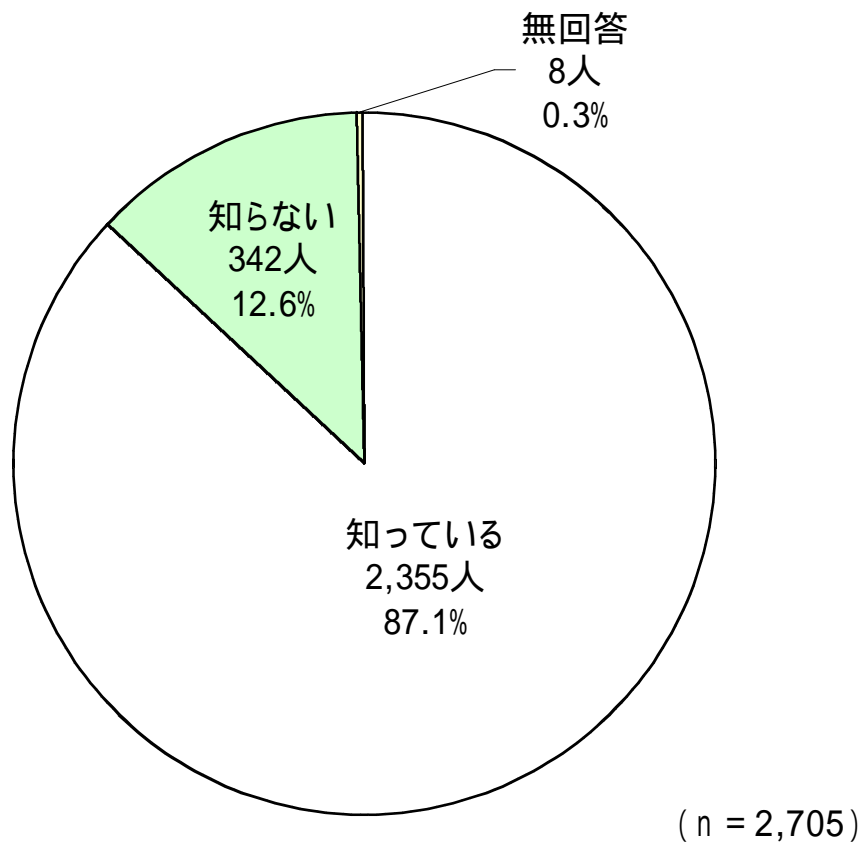
設問1 あなたは「出会い系サイト」を知っていますか？

・ 出会い系サイトの認知度は、87.1%

(全体)

「出会い系サイト」を知っているとの回答が87.1%を占めた。

図5. 「出会い系サイト」を知っているか



(性別)

男性、女性で違いはなく、同様な割合となった。

(年代別)

「出会い系サイト」を知っているとした回答者は20歳未満で97.4%と最も高く、年代が上がるに連れてその割合は低下し、70歳以上で61.1%となった。

設問2 あなたは「出会い系サイト」を児童が利用してはならないことを知っていますか？

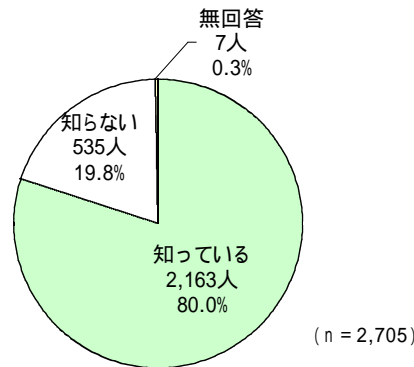
・ 出会い系サイトを児童が利用してはならないことについての認知度は、80.0%

(全体)

「出会い系サイトを児童が利用してはならないことを知っている」との回答が80.0%を占めた。

前問において、「出会い系サイト」を知っているとした回答者のうち、「出会い系サイトを児童が利用してはならないことを知っている」との回答が84.4%であった。

図6. 「出会い系サイト」を児童が利用してはならないことを知っているか



【出会い系サイトの認知状況別の割合】

図5. 「出会い系サイト」を知っているか

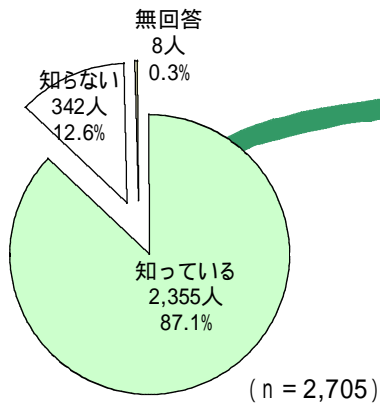
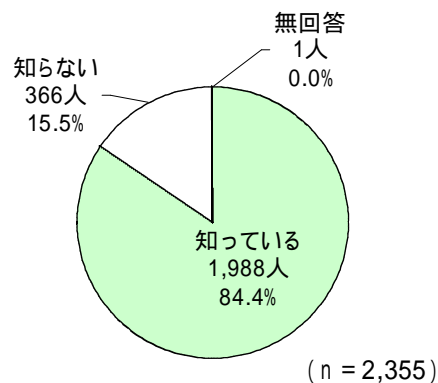


図7. (「出会い系サイト」を知っている回答者が)「出会い系サイトを児童が利用してはならないこと」を知っているか



(性別)

知っているとした回答者の割合は女性(83.2%)の方が男性(77.7%)より5.5ポイント高くなった。

(年代別)

年代別に顕著な違いはないが、20歳未満から40歳代までは知っているとした回答者の割合は80%を超えているが、50歳代以上では80%を下回った。

設問3 児童に「出会い系サイト」を利用させないことについて、努力しているとあなたが思うものは？ 【複数回答可】

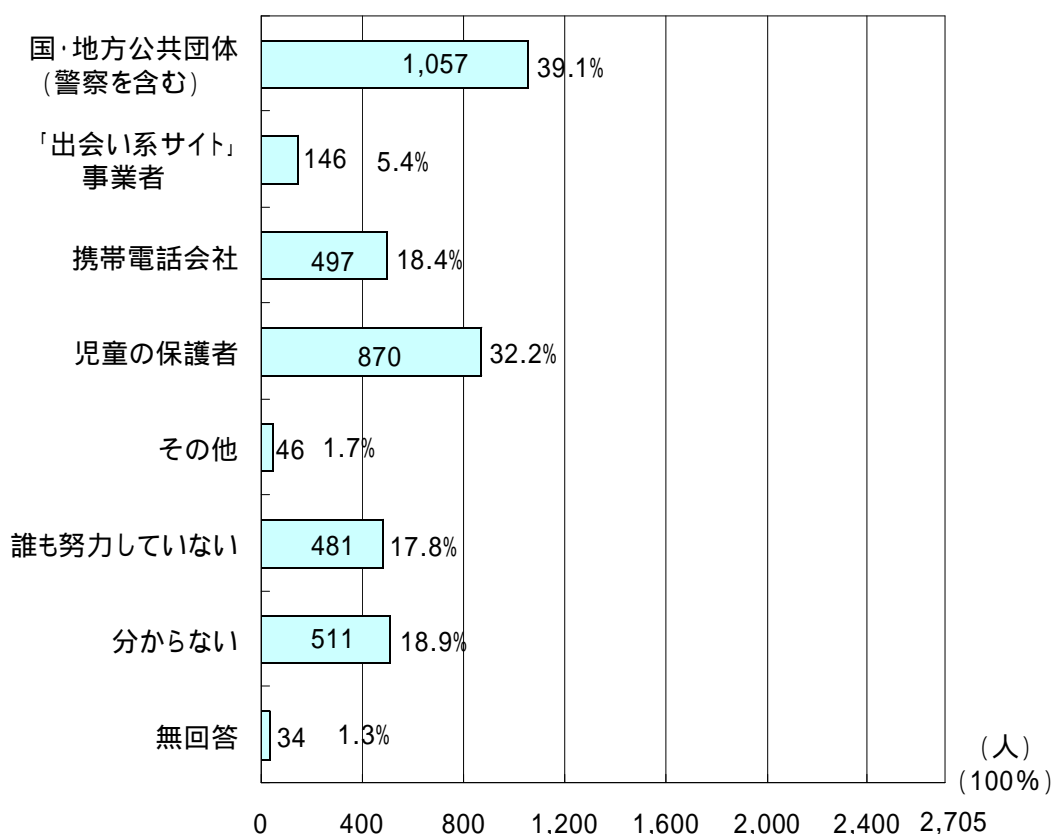
・児童に利用させないために努力しているものとしては、「国・地方公共団体（警察を含む）」が39.1%、「児童の保護者」が32.2%

（全体）

最も多いものは「国・地方公共団体（警察を含む）」（39.1%）で、次に「児童の保護者」（32.2%）が続く。

「携帯電話会社」は18.4%、「出会い系サイト事業者」は5.4%であった。

図9. 児童に「出会い系サイト」を利用させないことについて、努力していると思うのは、次のうちいずれの者・組織か（複数回答可）



その他は、「教師」、「学校」、「教育機関（高校等）」、「家庭（家族の監視）」等。

（性別）

男性では「1位：国・地方公共団体（警察を含む）（43.2%）」「2位：児童の保護者（26.0%）」であるが、女性では順番が逆転して「1位：児童の保護者（40.6%）」「2位：国・地方公共団体（警察を含む）（33.9%）」となった。

（年代別）

年代による顕著な違いはなく、概ねどの年代においても「1位：国・地方公共団体（警察を含む）」「2位：児童の保護者」であるが、30歳代では1位、2位が逆転した。

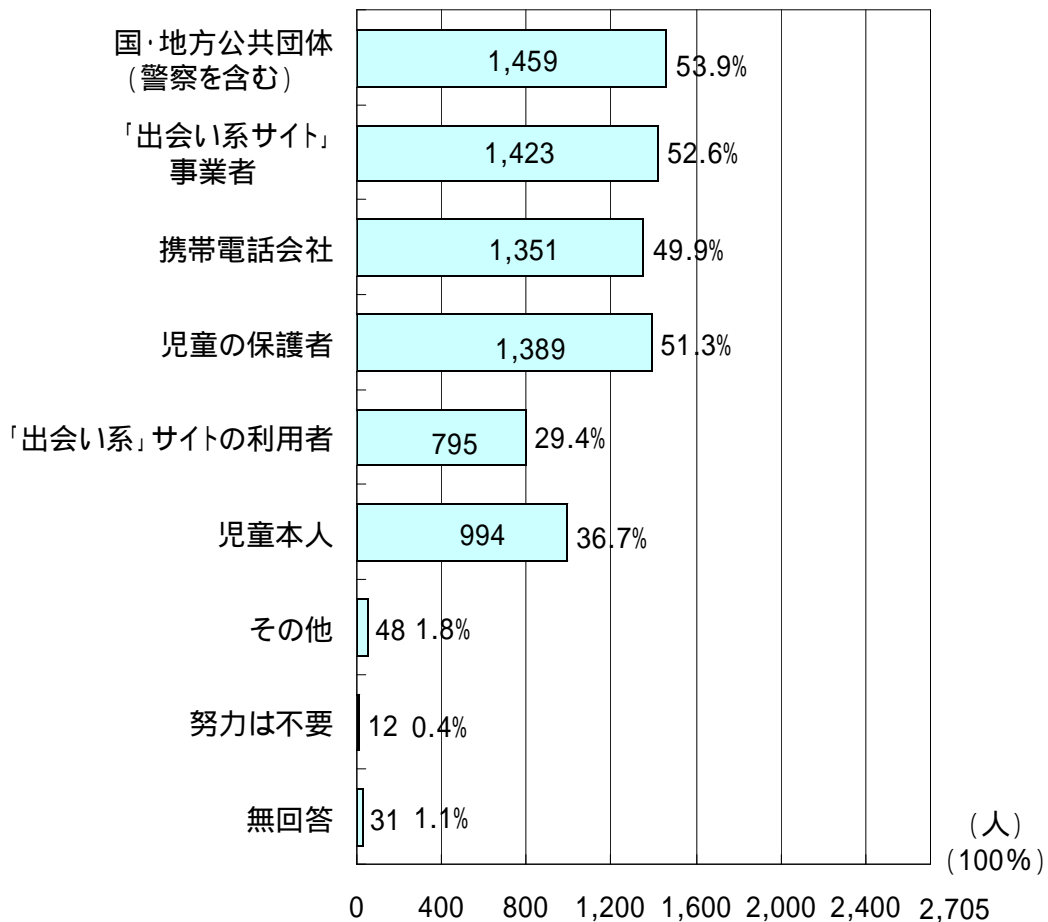
設問4 「出会い系サイト」に関係した児童の被害を減らすため、もっと努力が必要だとあなたが思うものは？ 【複数回答可】

・「出会い系サイト」に関係した児童の被害を減らすためにもっと努力が必要なものとしては「国・地方公共団体」「出会い系サイト事業者」「携帯電話会社」「児童の保護者」をほぼ同様に回答者の50%程度が選択。

(全体)

「国・地方公共団体(警察を含む)」(53.9%)、「出会い系サイト事業者」(52.6%)、「児童の保護者」(51.3%)が回答者の半数以上から選択され、次いで「携帯電話会社」(49.9%)もほぼ半数から選択されており、以下、「児童本人」(36.7%)、「出会い系サイトの利用者」(29.4%)が続く。

図10. 「出会い系サイト」に関係した児童の被害を減らすため、もっと努力が必要だと思うのは、次のうちいずれの者・組織か(複数回答可)



その他は、「学校、マスコミ」、「自分が悪い」、「インターネット系の会社(プロバイダ)」、「大人も含め現実的な道徳教育」等。

(性別)

男性では「国・地方公共団体(警察を含む)」(51.0%)のみが50%を超えるが、女性では最も選択率が高い「出会い系サイト事業者」(59.7%)を筆頭に「国・地方公共団体(警察を含む)」(58.6%)、「児童の保護者」(57.6%)、「携帯電話会社」(51.1%)が50%超となって努力が必要だと思う対象の範囲が広がった。

(年代別)

20歳未満では選択率が50%を超えるものは「出会い系サイト」(51.3%)のみであるが、年代が上がるに連れて更に「国・地方公共団体(警察を含む)」、「携帯電話会社」、「児童の保護者」が加わり、努力が必要だと思う対象の範囲が広がるようになるが、60歳代を超えると全体的に選択率が低下した。

設問5 「出会い系サイト」に関係した児童の被害を減らすため、国・地方公共団体（警察を含む）に期待することは何ですか？ 【複数回答可】

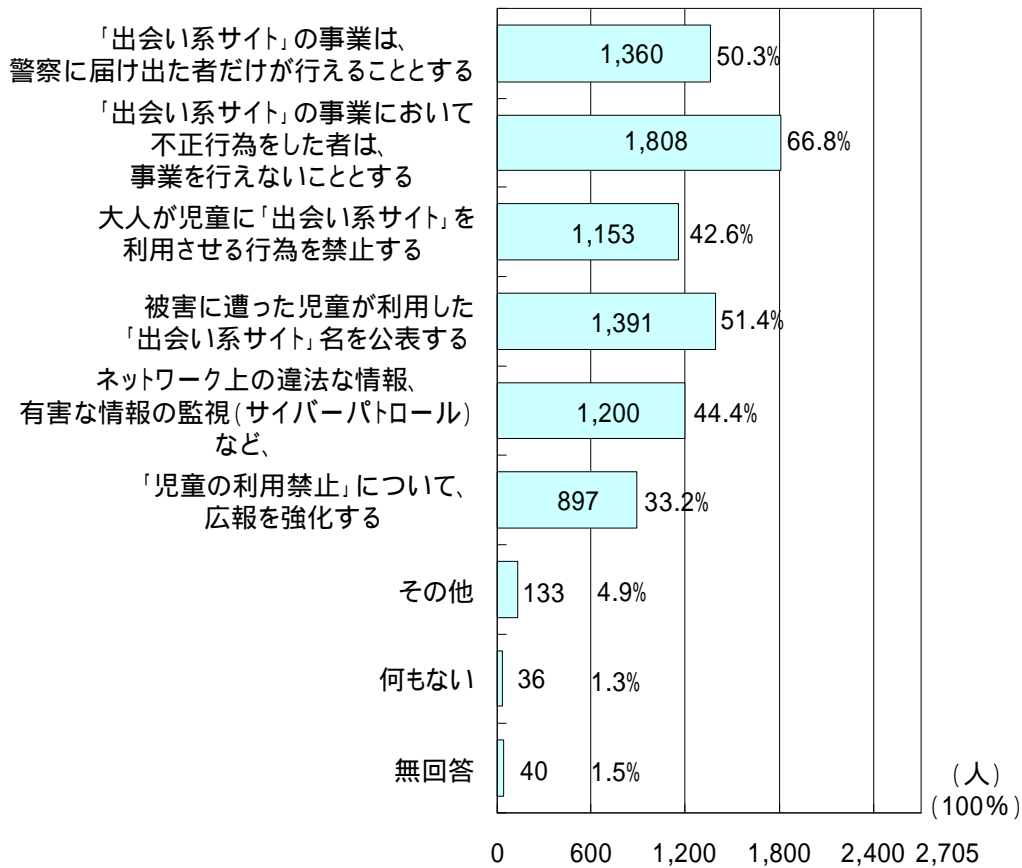
・「国・地方公共団体（警察を含む）」に最も期待することは、「不正行為をした出会い系サイト事業者は事業を行えないこととする」(66.8%)

(全体)

国・地方公共団体（警察を含む）に期待することとして最も多い項目は、「出会い系サイトの事業者において不正行為をしたものは事業を行えないこととする」で66.8%と7割近くを占めた。

次いで、「被害にあった児童が利用した出会い系サイト名を公表する」(51.4%)、「出会い系サイトの事業者は警察に届け出たものだけが行えることとする」(50.3%)がそれぞれ回答者の半数が選択。

図11. 「出会い系サイト」に関係した児童の被害を減らすため、国・地方公共団体(警察含む。)に期待することは何か(複数回答可)



その他は、「出会い系サイトそのものを廃止」、「利用した子供に罰則を与える」、「子供にも自覚を持たせる」、「出会い系サイト利用者への厳しい取締り」等。

(性別)

男性では選択率が50%を超えた項目は「出会い系サイトの事業者において不正行為をしたものは事業を行えないこととする」(62.8%)、「出会い系サイトの事業者は警察に届け出たものだけが行えることとする」(50.9%)の2項目であった。

女性ではそれら2項目に加えて「被害にあった児童が利用した出会い系サイト名を公表する」(57.0%)、「大人が児童に出会い系サイトを利用させる行為を禁止する」(50.0%)も50%を超え、また、それらに対する選択率も概ね高くなった。

(年代別)

年代が上がるに連れて国・地方公共団体(警察を含む)に期待する項目は多くなるが、50歳代を以上では、全体として選択率は低下する傾向にあった。

設問6 「出会い系サイト」に関係した児童の被害を減らすため、「出会い系サイト」関係者に期待することは何ですか？ 【複数回答可】

- ・児童の被害を減らすために関係者に期待することとして、
 - 携帯電話会社に対しては、「児童が利用する携帯電話へのフィルタリング機能の導入を勧める」(80.0%)
 - 保護者に対しては、「児童が利用するパソコン及び携帯電話にはフィルタリング機能を導入させる」(79.1%)
 - 出会い系サイト利用者に対しては、「児童に対して交際を求める言葉を書き込まない」(59.6%)
 - 出会い系サイト事業者に対しては、「利用者が児童でないことの確認方法を強化する」(58.5%)

を選択した者が最も多かった。

次頁以降に各関係者別集計結果を記載

設問 6 - 1 出会い系サイト事業者に対して期待することは？【複数回答可】

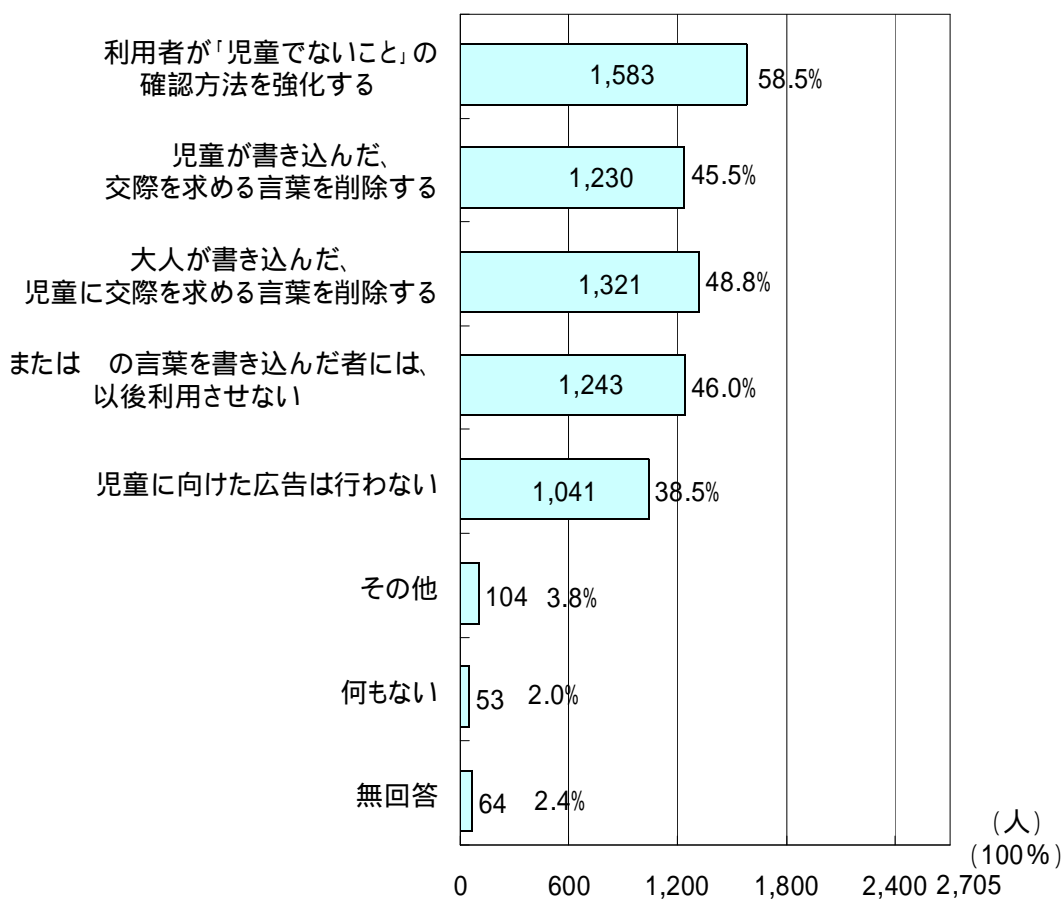
・ 出会い系サイト事業者に最も期待することは、「利用者が児童でないことの確認方法を強化する」(58.5%)

(全体)

出会い系サイト事業者に対して期待することとして最も多い項目は、「利用者が児童でないことの確認方法を強化する」で58.5%と過半数を占めた。

次いで、「大人が書き込んだ児童に交際を求める言葉を削除する」(48.8%)、「児童に交際を求める言葉を書き込んだ者には以後利用させない」(46.0%)、「児童が書き込んだ交際を求める言葉を削除する」(45.5%)がそれぞれ半数近くを占めた。

図12-1. 「出会い系サイト」に関係した児童の数を減らすため、出会い系サイト事業者に期待することは何か(複数回答可)



その他は、「携帯電話会社が児童への広告を制限(閲覧不可にする)」、「入会する時に身分証の提示をしてもらい、年齢を確認する」、「出会い系サイト等の存在自体をなくす(可能であれば)」、「事業を禁止する」等。

(性別)

男性では選択率が50%を超えた項目は「利用者が児童でないことの確認方法を強化する(57.3%)」の一つであった。

女性では上記項目に加えて「大人が書き込んだ児童に交際を求める言葉を削除する」(55.3%)、「児童に交際を求める言葉を書き込んだ者には以後利用させない」(52.6%)も50%を超え、また、全ての項目について選択率も高くなった。

(年代別)

20歳未満から30歳代にかけては年代が上がるに連れて出会い系サイト事業者に期待する項目が広範化し期待度が強まる傾向にあるが、40歳代以上になると期待度は徐々に低下する傾向にあった。

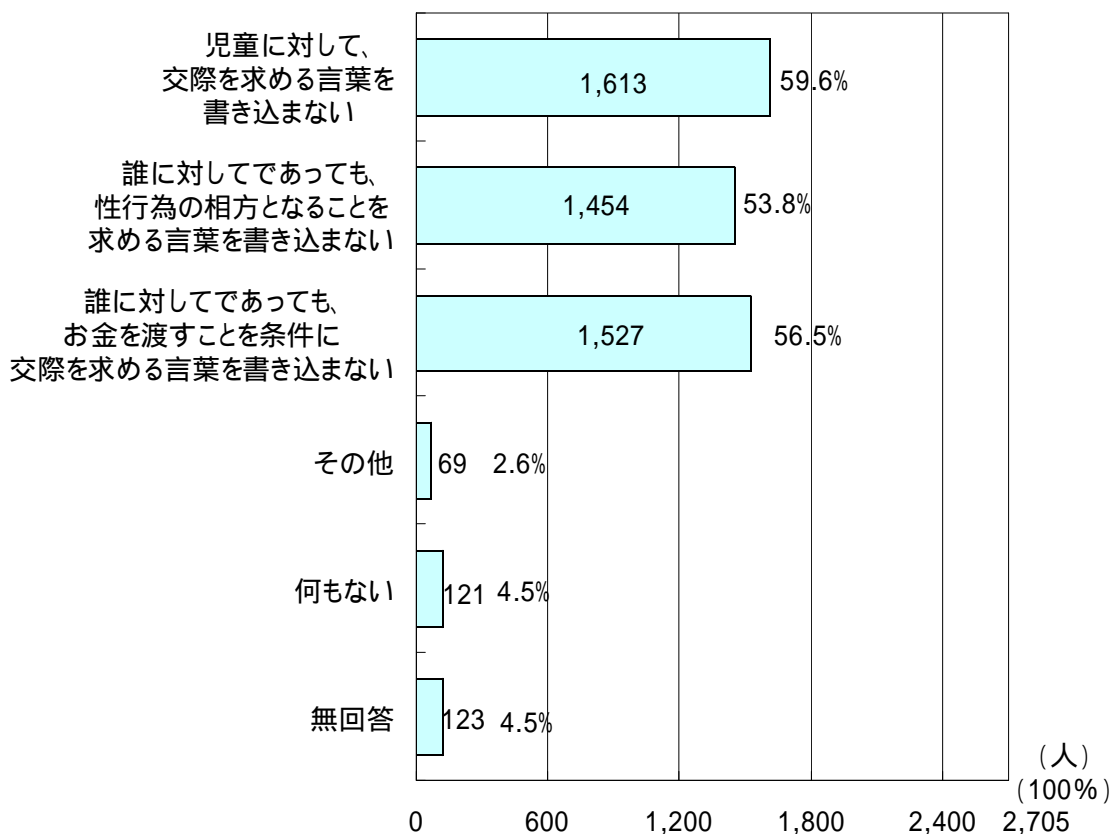
設問 6 - 2 出会い系サイトの利用者に対して期待することは？【複数回答可】

・回答者の半数以上が、出会い系サイト利用者に対して、対象が児童であるかに関わらず書き込み行為（ ）の自粛を期待
異性交際の誘引の性行為の相方を求める、お金を渡すことを条件に交際を求める等

（全体）

出会い系サイトの利用者に対して期待する項目としては、「 児童に対して交際を求める言葉を書き込まない」(59.6%)、「 誰に対してであってもお金を渡すことを条件に交際を求める言葉を書き込まない」(56.5%)、「 誰に対してであっても性行為の相方となることを求める言葉を書き込まない」(53.8%) がそれぞれ半数を超えた。

図12-2. 「出会い系サイト」に関係した児童の数を減らすため、出会い系サイト利用者に対して期待することは何か(複数回答可)



その他は、「利用者側にモラルを求めても意味がない」、「利用者に何らかの規制を求めることは可能」、「利用しない」、「出会い系サイト全廃」等。

（性別）

選択肢として挙げられた全ての項目において女性の方が選択率が高かった。対象を児童に特定した選択肢 では女性の選択率は男性より 3.7 %高いが、対象を児童に特定しない選択肢 ではその差は更に拡大し、女性の選択率は男性に比べてそれぞれ 16 %前後高かった。

（年代別）

年代が上がるに連れて、出会い系サイトの利用者に対して自粛を求める書き込み行為（性行為の相方を求める、お金を渡すことを条件に交際を求める等）の対象の範囲が広がる（児童対象 児童を含めて誰に対してであっても）傾向にあった。

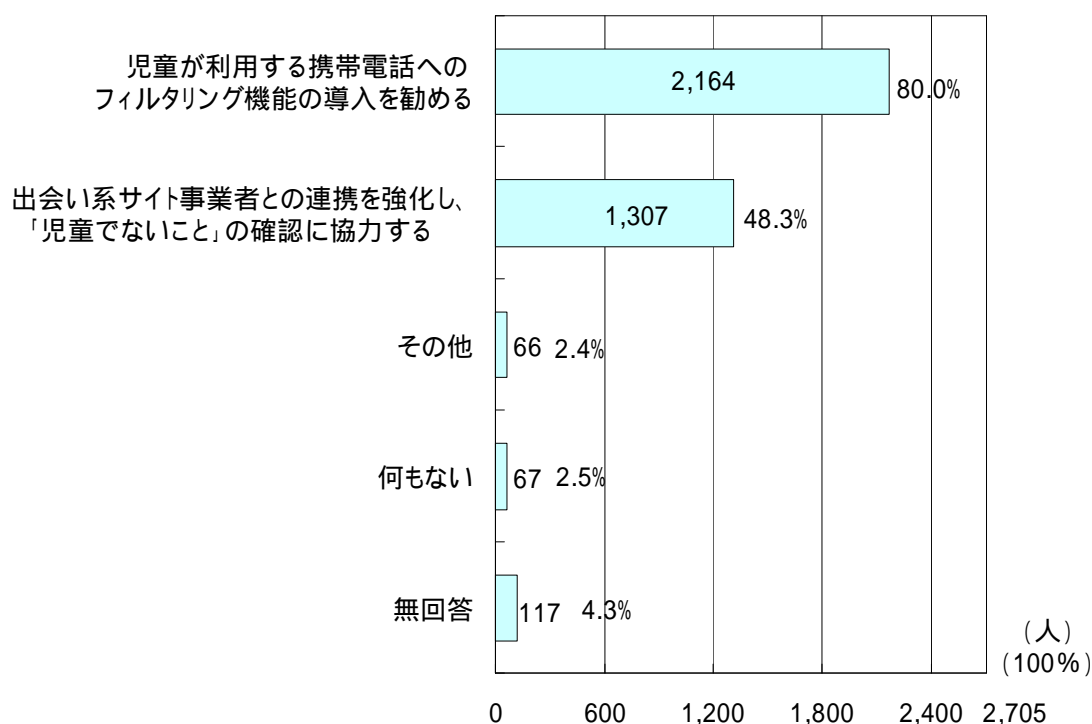
設問 6 - 3 携帯電話会社に対して期待することは？ 【複数回答可】

・携帯電話会社に対して最も期待することは、「児童が利用する携帯電話へのフィルタリング機能の導入を勧める」(80.0%)

(全体)

携帯電話会社に対して期待することとしては、「児童が利用する携帯電話へのフィルタリング機能の導入を勧める」が最も多く 80.0% を占めた。

図12-3. 「出会い系サイト」に関係した児童の数を減らすため、携帯電話会社に対して期待することは何か(複数回答可)



その他は、「サイトのリンクを全削除」、「児童が大人の携帯を借りて接続する事もあるかもしれないので他の方法も考えてほしい」、「出会い系サイトそのものを廃止する」、「児童が利用する携帯電話機の機能そのものを制限する(例、電話、メール機能のみ等)」等。

(性別)

選択肢として挙げられた2つの項目のいずれにおいても女性の方が選択率が高かった。

(年代別)

携帯電話会社に対する期待度は20歳未満から40歳代にかけて年代が上がるに連れて強くなるが、50歳代からは期待度は低下する傾向にあった。

設問 6 - 4 保護者に対して期待することは？ 【複数回答可】

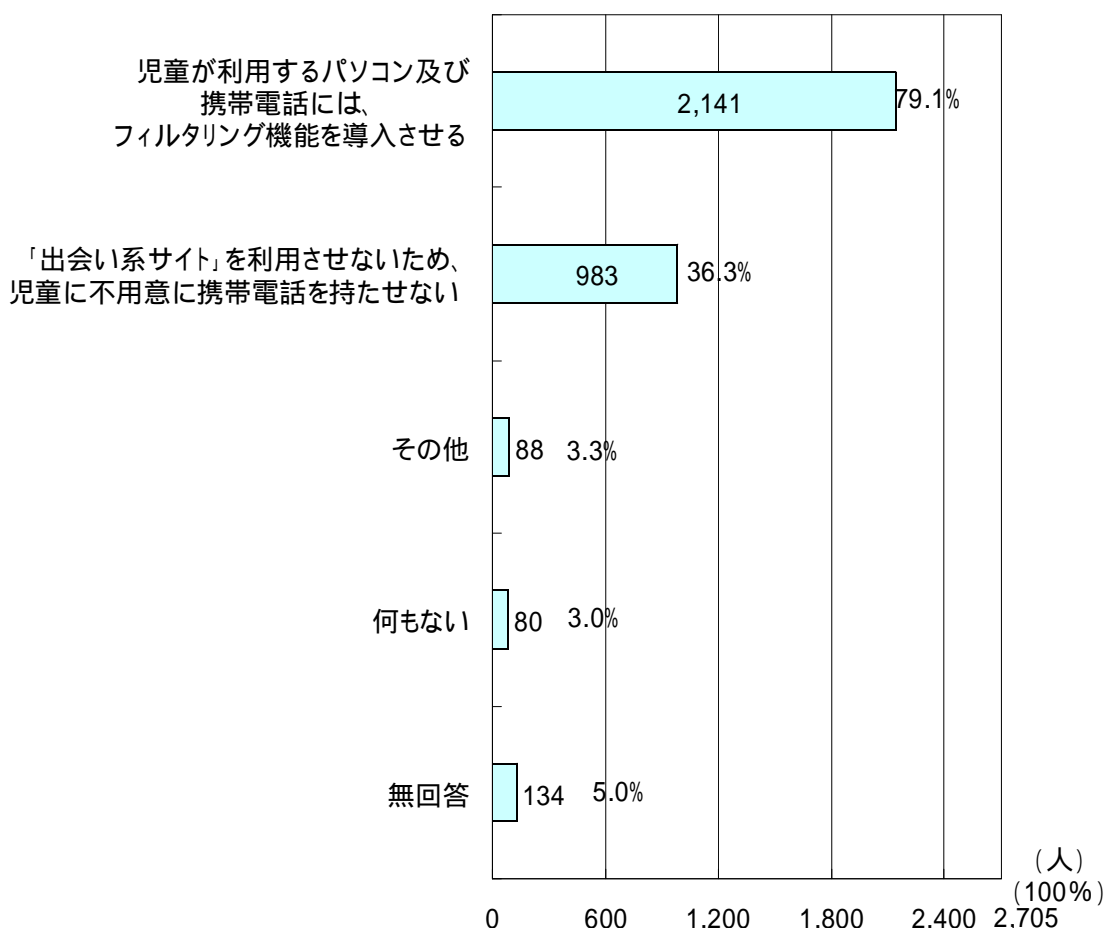
・保護者に対して最も期待することは、「児童が利用するパソコン及び携帯電話にはフィルタリング機能を導入させる」(79.1%)

(全体)

保護者に対して期待することとしては、「児童が利用するパソコン及び携帯電話にはフィルタリング機能を導入させる」が最も多く79.1%を占めた。

「出会い系サイトを利用させないため児童に不用意に携帯電話を持たせない」の選択率は36.3%と半数以下となった。

図12-4. 「出会い系サイト」に関係した児童の数を減らすため、保護者に期待することは何か(複数回答可)



その他は、「子供がしている事に目を向ける」、「パソコンを自室に置かない」、「15歳以下には携帯を持たせないようにする」、「子供の心の教育に力を入れる」等。

(性別)

選択肢として挙げられた2つの項目のいずれにおいても女性の方が選択率が高かった。

(年代別)

保護者に対する期待度は20歳未満から40歳代にかけ年代が上がるに連れて強くなるが、50歳代からは期待度は低下する傾向にあった。

設問7 異性交際を求める「出会い系サイト」と同様に児童が被害に遭う事件が起きている類似サイトに対しては、何らかの対策が必要だと思いますか？

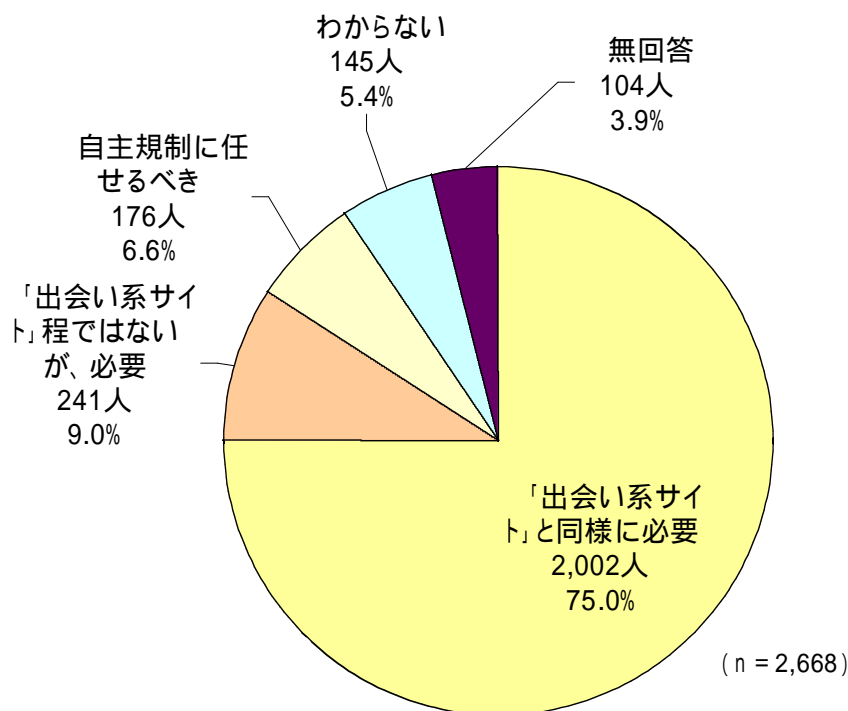
・児童が被害に遭う事件が起きている類似サイトに対して、何らかの対策が必要」が75.0%

(全体)

類似サイトに対する対策については「 出会い系サイトと同様に必要」が最も多く 75.0%を占めた。

「 出会い系サイトほど必要ではないが必要」(9.0%)、「 自主規制に任せるべき」(6.6%)の選択率は10%以下となった。

図13. 異性交際を求める「出会い系サイト」と同様に児童が被害に遭う事件が起きている類似サイトに対しては、何らかの対策が必要か



回答の内 37 件については、複数回答のため無効とした。

(性別)

男性、女性のいずれも「 出会い系サイトと同様に必要」が 75%前後を占めるが、選択率は女性 (77.5%) の方が男性 (73.9%) より若干高い。

(年代別)

20 歳未満から 40 歳代にかけて年代が上がるに連れて「 出会い系サイトと同様に必要」とする回答者の割合は高まるが、50 歳代からは低下する傾向にある。

